第１回神戸医療産業都市の将来像についての検討会　議事要旨

１．日　　時　2023年12月13日（水）10：00～12：10
２．場　　所　クリエイティブラボ神戸
３．論　　点　①神戸医療産業都市の今後の方向性について
　　　　　　　②神戸医療産業都市が備えるべき機能について
　　　　　　　③今後取り組むべき施策・事業のあり方について

４．議事要旨

・会長挨拶
・神戸市より趣旨等説明
・各委員意見

●メディカルクラスターの更なる発展のための領域別専門センターの整備が必要
●メガホスピタル機能を目指した病院群の一体的運営システムの整備が必要
●ICTを活用した医療情報の迅速・効率的な共有化による利便性の向上が必要
●グローバルに活躍する臨床医の集積を図るための病院機能の充実が必要
●神戸大学の ICCRC とその増築棟が完成することで欧米の先進地域と同様に臨床現場ニーズの探索から事業化等の相談も可能な医療機器の一貫した開発体制が整う。
●神戸市や神戸医療産業都市推進機構、未来医工学研究開発センター、医工探索創成センターや臨床研究推進センターの連携・強化が必要。
●全国からの利便性を考慮し、三宮周辺にオープンラボ等の拠点を整備する必要がある。
●薬事相談に対応できるようなコンサルティング機能が必要
●サルやブタといった大型動物の試験ができるようなCROの設置が必要。
●シーズを保有する会社とニーズを持っている会社の両方を把握し、これらを結びつける機能が必要。
●患者の声を聞く会の開催も必要。
●グローバル展開することを前提として取り組んでいる。
●神戸医療産業都市の人的ネットワークを通じ、海外展開の可能性を広げることが必要
●現在の神戸医療産業都市の取組みでも充分な支援機能を持っているが、今後の発展のために、さらにそれを拡充する必要がある。
●CEOだけでなく、末端の職員にいたるまでが熱意と夢を持って、自分たちの技術や事業と向き合うようなモチベーションやリーダーシップを兼ね揃えた人材が必要。
●セミナーやネットワーキングの場は必要かもしれないが、トップ層に特化した、トップ層がさらに高みを目指せるような仕掛けが必要。
●実験の AI ロボット化を中核的求心力とした新型インキュベーション施設を構築することで神戸の競争力を飛躍的に向上させることができると考える。
●AIスタートアップの誘致強化などによりAI・DX人材の集積・育成を強化する必要がある。
●神戸医療産業都市推進機構傘下に実験ロボット化・AI・DXに対応する研究・開発・支援機能を新設されたい。
●シリコンバレーは誰かが作ったものではなく、偶発的に出来た。神戸でも大成功事例が誕生すればそれに引っ張られる形で有望な企業が多く進出し、成長するエコシステムが形成される。
●研究者同士の相乗効果が生まれる仕組みづくりが必要。
●ネットワーキングの機会を持っても、それがすなわち具体的なビジネスの話として進む訳では

なく、互いにオープンでストレートな意見交換や提案が必要であり、ビジネスニーズと企業文化の相互理解が必要。

●一人ひとりが誰かと誰かをつなげる、紹介する環境の構築やネットワークハブとなる人や場の形成が必要。

●神戸では神戸大学が臨床研究中核病院の役割を担っているが、神戸医療産業都市には様々な高度専門病院が集積しており、これらが一体となるメディカルクラスターとして、より発展していく必要がある。

●現状では電子カルテの共有や契約関係事務についてもコストがかかっている。

●未病の状態の方に、どのように神戸医療産業都市が見えているか、市民に一番近い存在として中央市民病院が何らかの役割を果たすことができれば良い。

●他企業との協業のためのコーディネート機能の拡充・強化が必要。

●高度専門病院が集積しているが、カルテの電子化や患者情報の共有が進み、集積している各病院を１つの診療科のように利用できる環境があれば良い。

●神戸空港の国際化も予定されており、海外患者をワンストップで受け入れる機能も必要。

●情報発信の方法の拡充も必要。

●一種の強制力を促す住まい、連動したリビングラボすなわち集合住宅の健康のために、管理費や修繕積立費は当たり前に数万円支払うというような仕組みを提案したい。

●神戸市 or ポーアイ再開発拠点に住まう生活者視点でのプライマリ・ケアの未来の洞察や未来に備えた構えとしての研究開発が必要。

●神戸医療産業都市の取組みや成果が市民に知られていないことが課題であるため、メディアでの露出や SNS を活用した広報を続けるとともに、アンカー神戸などを使ったイベント開催により認知度をあげる必要がある。

●地元の学生が神戸医療産業都市の中で就職できれば街の成長につながり、効果還元となる。学生を長期インターンシップとして紹介するスタートアップ企業もいるため、これらを活用することも１つの案。

●イベント開催にあたっては神戸医療産業都市の進出企業を含めた他業種の人が集まるような内容にしたうえで、実際のマッチングにまでつながるようなものにする必要がある。

●ポーターのダイヤモンドフレームワークにより、ある特定の地域に、特定の産業が集積することの利点はロジカルに説明できる。神戸医療産業都市もこの理論に当てはめて、成長しうる環境がそろっていると見ることができる。

●フロリダのクリエイティブ都市経済論によると、科学技術、才能、寛容（＝多様性）がそろっていると、クリエイティブクラスが好む地域になることができる。

●神戸市ではポートアイランドの可能性を再発見してアクティブ化する「ポーアイリボーンプロジェクト」を進めている。

●まず、街路と沿道を一体的に利活用する「ストリートマネジメント」の考え方を導入し、公共空間のサービスや環境を充実させる。

●2024 年度に社会実験を行い、市民提案をまとめる。2025 年度には神戸市として「ポーアイ公民連携基本計画」を策定する。

●神戸医療産業都市はポートアイランドの中に位置するため、この検討会で議論する将来像はリボーンプロジェクトと積極的に反映させていきたい。

以上